

里村穰の国語科（第2学年）研究計画

1 本研究で目指す子ども

「読むこと」では、文章を理解することだけでなく、文章を読んで、叙述を根拠に、自分の知識や経験を理由付けした自分の考えをまとめることまでを目指している。このことは、学習指導要領でも求めていることであり、これからも文章を読み生きていく子どもにとって、必要な能力である。

これまででも、文章に対する自分の考えを問い、表出させようとしてきた。しかし、文章をなぞらえるだけで、自分の考えとする子どもの姿があった。また、どのような読む力を身に付けたのかをとらえられていない子どもの姿もあった。これらの原因は、次の3点である。

1点目は、子どもがもつ文章を読む目的を、文章を理解することだけに留めていることである。文章を与えられた子どもは、文章を理解しようと読む。この状態の子どもに自分の考えを問うても、理解したことを表出はするが、文章に対して自分の知識や経験を理由付けした自分の考えをまとめることができなかった。

2点目は、単元の導入でのみ文章と関連する自分の知識や経験を想起させていることである。単元導入でのみ自分の知識や経験を想起させても、子どもは、文章と自分の知識や経験を結び付けられない。読書活動の過程で、想起した自分の知識や経験が置き忘れられるからである。その結果、叙述を根拠に、自分の知識や経験を理由付けした自分の考えをまとめられなかった。

3点目は、「何が分かったか」という視点で読書活動の振り返りを行わせていることである。この視点の振り返りでは、子どもは、文章を理解したことをとらえることはできるが、自分がどのような読む力を身に付けたのかをとらえることができなかった。

そこで、説明的な文章を教材とした「読むこと」において、**叙述と自分の知識や経験とをつなぎ、自分の考えをまとめる子ども**を目指し、次の3点の改善を行う。

1点目は、文章を理解するという読書活動の目的に、自分の考えをまとめるという読書活動の目的を付加することである。子どもは、初読後の感想で、文章の題材に対して驚きや感心を表出する。この驚きや感心を基に、「〇〇（文章の題材）はどんな△△（題材の上位概念）かを読んで考えよう」のような言語活動を設定する。こうすることで、子どもは、文章を理解し、文章に対する自分の考えをまとめるという読書活動の目的をもつ。

2点目は、文章を読む過程で、文章と自分の知識や経験を結び付けさせることである。そのために、文章全文を載せ、どの言葉や文に着目したのか、どうしてその言葉や文に着目したのかを書き込めるワークシート（「対象」）を用いる。こうすることで、子どもは、文章と自分の知識や経験を結び付け、自分の考えの根拠となる言葉や文を判断したことを視覚的にとらえられる。

3点目は、振り返りの視点を「何ができたか」とすることである。そのために、自分の考えをまとめた段階で、「どのように読んだことで、考えがまとめることができたのか」などと問う。

このようにすることで、目指す子どもの具現を図る。

2 主張する働き掛け

(1) 「中核的な学習内容」

文章に対する自分の考えをまとめること

(2) 「学びをつなぐ力」

①比較するすべを用いて、学習課題を視点に文章の複数の叙述を比べ、自分の考えの根拠となりそうな言葉や文を収集する力

②関係付けるすべを用いて、文章と自分の知識や経験を結び付け、叙述から自分の考えの根拠となる言葉や文を判断する力

(3) 働き掛け

導入時、まず、文章の題名と文章の題材に関連する視覚的資料を提示し、文章に関連する自分の知識や経験を想起させる。次に、文章全文を提示して読ませ、初発の感想を記述させる。文章全文を読んだ子どもは、「初めて知った」「〇〇はすごいと思う」などの、文章の題材に対する驚きや感心を表出する。これらの驚きや感心を表出した子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け1

言語活動（「〇〇はどんな△△かを読んで考えよう」）を提示する。

読書活動の目的に自分の考えをまとめることを付加し、問いをもたせる働き掛けである。

子どもの驚きや感心を基に、「〇〇はどんな△△かを読んで考えよう」のような言語活動を提示する。すると、子どもは、「〇〇はどんな△△何だろう」「きっと〇〇はこんな△△ではないかな」

などの疑問や予想をもつ。このような子どもに、この段階での自分の考えを「はじめシート」に記述させる。根拠と理由付けが明確に記述されていない子どもを、問いをもった姿とみなし、次のように働き掛ける。

働き掛け2

「すごいねシート（「対象」）」を配付し、大事な言葉や文がどれかを問う。

自分の考えの根拠となりそうな言葉や文を収集させる働き掛けである。

まず、「すごいねシート」（「対象」）を配付する。このシートは、上段に文章全文を載せ、中段に言葉や文を書き出す欄を、下段に選択した理由を書く欄を設ける。このシートを用いることで、叙述を基にした自分の知識や経験を表出させ、文章と自分の知識や経験とを結び付けていることを視覚的にとらえさせることができる。

次に、「○○はどんな△△かを考えるときに大事だと思う言葉や文はどれか」と問い、中段の欄に書くように指示する。すると子どもは、**比較するすべ**を用いて、学習課題を視点に文章の複数の言葉や文を比べ、自分の考えの根拠となりそうな言葉や文を書き出す。

自分の考えの根拠となりそうな言葉や文を収集した子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け3

大事な言葉や文を選択した理由を問い、班内で交流させる。

自分の考えの根拠となる言葉や文を判断させるための働き掛けである。

まず、「その言葉や文が大事だと思ったのは、どうしてか」と問い、シート下段に記述させる。すると子どもは、**関係付けるすべ**を用いて、文章と自分の知識や経験とを結び付け、自分の考えの根拠となる言葉や文を判断する。このとき、子どもは、他の人はどの言葉や文をどのような理由で判断したのかと気になっている状態である。

そこで、次に、選択した言葉や文と判断した理由を班内で交流させる。班内で交流させることで、子どもは、自分の選んだ言葉や文の妥当性を検討し、「似ている理由だ。やっぱりこの言葉や文だ」ととらえたり、「その理由も分かるな。こちらの言葉や文も大事だな」ととらえ直したりする。なお、働き掛け2と働き掛け3は、事例内容ごとに繰り返し行う。

そして、事例すべてを学習後に、再度、言語活動を提示して自分の考えを問い、自分の考えを「まとめシート」に記述させる。自分の考えを表出した子どもに、次のように働き掛ける。

「学びをつなぐ力」の自覚を促す働き掛け

自分の考えをまとめることができた要因を問う。

「学びをつなぐ力」の自覚を促すための働き掛けである。自分の考えをまとめ、表出した子どもに、「どのように読んだことで、自分の考えをまとめることができたのか」と問い、「まとめシート」に記述させる。子どもは、「自分の知識や経験と結び付けて読むことで、大事な言葉や文が分かり、自分の考えがまとめられた」などのように、「学びをつなぐ力」を自覚する。

3 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、「中核的な学習内容」を創り出すことができたか。
- ② 構想した働き掛けにより、「学びをつなぐ力」を発揮することができたか。
- ③ 構想した働き掛けにより、「学びをつなぐ力」を自覚することができたか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け3を受けて、叙述を根拠に、自分の知識や経験を理由付けした自分の考えをまとめているかを、「まとめシート」の記述から検証する。
- ②-1 働き掛け2を受けて、比較するすべを用いて、言語活動を視点に文章の複数の叙述を比べ、自分の考えの根拠となりそうな言葉や文を収集しているかを、「すごいねシート」の記述から検証する。
- ②-2 働き掛け3を受けて、文章と自分の知識や経験とを結び付け、叙述から自分の考えの根拠となる言葉や文を判断しているかを、「すごいねシート」の記述から検証する。
- ③ 「学びをつなぐ力」の自覚を促す働き掛けを受けて、想定した「学びをつなぐ力」②を自覚することができているかを、「まとめシート」の記述から検証する。

4 年間の授業計画

- (1) 指定研究授業（6月） 「読んで考えたことを伝えよう①（教材名：たんぼのちえ）」（6時間）
- (2) 中間検討会（9月） 「読んで考えたことを伝えよう②（教材名：どうぶつ園のじゅうい）」（8時間）
- (3) 初等教育研究会（2月） 「読んで考えたことを伝えよう③（教材名：おにごっこ）」（8時間）